

〔TPN 水和剤（フロアブル）〕

## ダコニール1000

有効成分：TPN (PRTR・1種) ..... 40.0%

性 状：類白色水和性粘稠懸濁液体  
 有効年限：5年  
 包 装：250ml×40本  
 500ml×20本

ダコニールは株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。

## 〔特長〕

- 各種作物に登録がある。  
汎用性が高く、70種類を超える作物に登録がある。
- 様々な病害に登録があり、基幹防除薬剤として適する。  
作物の各種病害に適用があるため、効率的な病害防除が可能となる。有効成分が1種類であるため、栽培期間中に使用する成分数を減らすことができる。
- 作物の汚れが少ない。  
一般に水和剤は薬液散布後に作物に汚れが残るが、本剤はこの汚れの原因であるクレイ等の鉱物質を含んでいないので、散布後の汚れが少ない。
- 耐性菌の確認事例がない。  
有効成分のTPNは、広範囲の作物・病害に使用されているが、耐性菌の出現事例はない。
- 有効成分が微粒子なので優れた効力を発揮する。  
フロアブル製剤により、有効成分が微粒子になっているため、植物を被覆する面積も大きく、また均一に付着する。
- 散布液の調製が簡単である。  
散布液調製時に粉立ちがないので、薬剤を吸引したり、皮膚に付着することが少ない。また、水中分散性が優れているので、水に入れると速やかに分散し、散布液を調製するのが簡単である。

## 〔適用病害と使用方法〕

## 1. 散布剤として使用する場合

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期*	本剤の* 使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の 総使用回数*							
きゅうり	べと病、炭疽病、 うどんこ病、褐斑病、 灰色かび病、黒星病	1000	100～ 300ℓ /10a	前日	8回	散布	10回(土壌灌注：2回、 散布及びくん煙 及びエア ゾル剤の噴射：合計8回)							
にがうり	べと病、炭疽病、うどんこ病、 斑点病、つる枯病				4回		4回							
ズッキーニ	うどんこ病				3回		3回							
ごぼう					5回		5回							
ゆうがお	べと病、炭疽病、うどんこ病				4回		4回							
うり類(漬物用、 但し、ゆうがおを除く)	べと病、炭疽病、 うどんこ病、つる枯病				4回		4回							
かぼちゃ	べと病、白斑病、うどんこ病	3回	3回	散布	3回									
すいか	炭疽病	700	3日	5回	5回	5回								
	つる枯病	700～ 1000												
メロン	べと病	700					前日	4回	2回	6回(土壌灌注：2回、 散布及びくん煙 及びエア ゾル剤の噴射：合計4回)				
	うどんこ病													
トマト	疫病、輪紋病、炭疽病、 葉かび病、すすかび病、 灰色かび病、うどんこ病	1000									2回	2回	2回	2回
	つる枯病													
ミニトマト	斑点病													

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期*	本剤の* 使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の* 総使用回数	
オクラ	葉すず病	1000	100~ 300ℓ /10a	前日	5回	散布	5回	
なす	黒枯病、灰色かび病、 すずかび病、うどんこ病				4回		4回	
ピーマン	斑点病、うどんこ病、 黒枯病、炭疽病				3回		3回	
はくさい	べと病、白さび病、 白斑病、黒斑病			7日	2回		3回 (は種又は定植 前の土壌混和:1回、 散布:2回)	
キャベツ	べと病、根朽病			14日			3回(は種又は定植前の土 壌混和:1回、散布及び エアゾル剤の噴射: 合計2回)	
ひろしまな	白斑病			28日			2回	
ブロッコリー	べと病			出蕾前 但し、21日			3回(土壌灌注:1回、 散布:2回)	
カリフラワー				出蕾前 但し、14日	3回			
なばな類 (なばなを除く)	べと病、白さび病、 白斑病、黒斑病			60日	3回		3回	
なばな				出蕾前 但し、21日				
だいこん	ワッカ症、白さび病、 白斑病、炭疽病			45日	2回		5回(土壌灌注:2回、 散布:3回)	
レタス	灰色かび病			14日				
リーフレタス	べと病、すそ枯病			21日				
たまねぎ	べと病、灰色かび病、 白色疫病			7日				6回
ねぎ	黒斑病、べと病、 小菌核腐敗病、 葉枯病、さび病	14日	3回	4回(土壌灌注:1回、 散布:3回)				
わけぎ			2回	3回(土壌灌注:1回、 散布:2回)				
にんにく	葉枯病、黄斑病、 白斑葉枯病、さび病	7日	6回	6回				
らっきょう	灰色かび病	14日	3回	3回				
アスパラガス	茎枯病、斑点病、 褐斑病、疫病	100~ 400ℓ /10a	前日	4回	4回			
しょうが	紋枯病、白星病	500~ 1000	100~ 300ℓ /10a	14日	5回	5回		
ばれいしょ	疫病			7日				
やまのいも	夏疫病			1000	30日		6回	6回
	炭疽病、葉渋病、 つる枯病				45日			
もりあざみ	ステムフィリウム葉枯症		30日	3回	3回			
茶	炭疽病、もち病、 輪斑病、新梢枯死症 (輪斑病菌による)	700~ 1000	200~ 400ℓ /10a	10日	1回	1回		
	網もち病、褐色円星病	1000						
	黒葉腐病、灰色かび病	700						
セルリー	斑点病、萎縮炭疽病	1000	100~ 300ℓ /10a	21日	2回	2回		
にんじん	黒葉枯病			7日	5回	5回(種子への吹き 付け処理:1回)		

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期*	本剤の* 使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の* 総使用回数		
みつば	べと病	1000	100~ 300ℓ /10a	根株養成期 但し、75日	3回	散布	3回		
しゃくやく (薬用)	うどんこ病			45日	15回 (1年間に 3回)		15回 (1年間に3回)		
みしまさいこ	炭疽病			30日	3回		3回		
あしたば	黒枯病			1000	14日		4回	4回	
らっかせい	褐斑病			500	30日		4回	4回	
食用ぎく	褐斑病			500	14日		6回	6回	
食用ゆり	葉枯病				21日		2回	2回	
ふき	灰色かび病				45日		3回	3回	
てんさい	褐斑病				根株養成期 但し、200日		3回	4回(散布は3回、 根株瞬間浸漬は1回)	
うど	黒斑病			1000	150ℓ /10a		前日	4回	株元散布
しそ	斑点病(株枯症)	200~ 700ℓ /10a	45日			3回	3回		
りんご	斑点落葉病、 モニリア病、黒星病		前日			6回	6回		
なし	黒斑病、黒星病					3回 (休眠期:1回)			
もも	灰星病、黒星病		2回			2回			
ネクタリン	疫病、黒葉枯病、 黒かび病、さび病	2000	14日			4回	4回		
いちじく	疫病、黒葉枯病、 黒かび病、さび病							4回	4回
みょうが (花穂)	葉枯病、紋枯病	1000	100~ 300ℓ /10a			みょうが (花穂)の収穫 14日前まで 但し、花穂を 収穫しない 場合は開花期 終了まで	4回	4回	
みょうが (莖葉)									
キウイフルーツ	果実軟腐病	500~1000	200~ 700ℓ /10a			60日	7回	散布	7回
	すす斑病	500		前日	5回	5回			
パパイヤ	炭疽病	1000		30日	4回	4回			
マルメロ	ごま色斑点病			45日	3回	3回			
かりん	黒点病、ごま色斑点病、 白かび斑点病			14日	2回	2回			
パッションフルーツ	円斑病、疫病			100~ 300ℓ /10a	—	6回	6回		
たばこ	うどんこ病	700~1000	25~ 150ℓ /10a					2回	2回
ばら	黒星病、うどんこ病、 斑点病	1000	100~ 300ℓ /10a					6回	6回
きく	黒斑病、褐斑病、 白さび病、うどんこ病、 斑点病								
チューリップ	褐色斑点病								
ゆり	葉枯病、斑点病								
りんどう	葉枯病、褐斑病								
花き類・観葉植物 (ほうきく、 チューリップ、 ゆり、りんどうを除く)	うどんこ病、斑点病								

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期*	本剤の* 使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の* 総使用回数
しきみ	炭疽病	1000	200~ 700ℓ /10a	—	6回	散布	6回
つつじ類	褐斑病						
西洋芝 (ベントグラス) 西洋芝 (パーミューダグラス)	ヘルミントスポリウム葉枯病、 葉腐病 (ブラウンパッチ)	500~750	1ℓ /㎡	発病初期	8回		8回

## 2. 土壌灌注剤として使う場合

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の* 使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の* 総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (リゾブス菌)	500~ 1000	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り0.5ℓ	は種時から 緑化期 但し、は種 14日後まで	2回	土壌灌注	2回
		1000~ 2000	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ				
きゅうり	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000	3ℓ / ㎡	は種時又は 活着後 但し、定植 14日後まで	2回	土壌灌注	10回(土壌灌注:2回、 散布及びくん煙及びエア ゾル剤の噴射:合計8回)
トマト							6回(土壌灌注:2回、 散布及びくん煙及びエア ゾル剤の噴射:合計4回)
レタス	ビッグベイン 病		1.5~3ℓ / ㎡	収穫42日前 まで	5回(土壌灌注: 2回、散布:3回)		
ブロッコリー	根こぶ病		3ℓ / ㎡	定植時	3回(土壌灌注: 1回、散布:2回)		
みずな	立枯病			は種時			1回
ねぎ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500	0.5ℓ / ㎡	出芽揃い後 (出芽3日後か ら10日後まで)	1回		4回(土壌灌注: 1回、散布:3回)
わけぎ			セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット 1冊(30×60cm、使用 土壌約5L)当り0.5L				0.5ℓ / ㎡

## 3. 種子消毒剤として使う場合

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の* 総使用回数
にんじん	黒葉枯病	12	乾燥種子1kg 当り60ml	は種前	1回	吹き付け処理 (種子消毒機使用)	5回 (種子への吹き付け 処理:1回)




\*収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫(摘採)前の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

表中「—」は、使用時期の制限がないことを示す。

## 効果・薬害等の注意

- 使用直前に容器をよく振る。
- 石灰硫黄合剤とは混用しない。
- ストレプトマイシン剤及びホセチル剤と混用する場合、必ず本剤を先に所定の濃度に希釈してからそれぞれの剤を加える。
- 稲（箱育苗）に使用する場合、次の事項に注意する。
  - 緑化期に使用する場合、発病後の処理では効果が劣ることがあるので注意する。
  - 育苗箱から希釈液が漏出しないように注意する。
- りんごに使用する場合、ゴールデンの後代品種（つがる、世界一、ジョナゴールド等）には、葉に薬害を生じるので使用しない。また、本剤の散布により、サビ果が多くなるおそれがあるので落花後20日間は散布しない。
- なしに使用する場合、二十世紀以外の品種には葉に薬害を生じるので使用しない。また、二十世紀であっても7月以前に使用すると葉に薬害を生じるので7月以降に使用する。
- 有袋栽培のものに使用する場合、除袋直後の散布は果面に日焼け症状が出るおそれがあるのでさける。
- いちじくに使用する場合、果実に薬害が生じるおそれがあるので、果実肥大期の初期あるいは夏期高温時の散布はさける。
- ねぎ及びわけぎに土壤灌注する場合、は種時から出芽直後の処理は、生育抑制のおそれがあるので注意する。
- レタスに使用する場合、生育遅延のおそれがあるので高温期の灌注はさける。
- しそに使用する場合、葉にかからないように株元に散布する。
- 花き類に使用する場合、花卉に薬液が付着すると漂白・退色などによる斑点を生じる場合があるので着色期以降の散布はさける。また、薬液による汚れが生じるおそれがあるので、収穫間際の散布はさける。
- 芝に使用する場合、夏期高温時の散布、特に暖地では葉に薬害（黄変または褐変）を生じることがあるので注意する。
- 使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 安全使用上の注意

- 誤飲に注意。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 夏期高温時は使用しない。
-  ●使用の際は保護クリームをつけ、農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣等を着用する。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをし衣服を換える。作業時の衣服等は他と分けて洗濯する。
-  ●かぶれやすい人は作業に従事しない。施用した作物等に触れない。
-  ●蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないように注意する。
- 街路・公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。



- 魚毒性等…水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意する。養殖池周辺での使用はさける。使用した苗は養魚田に移植しない。移植後は河川、養殖池に流入しないよう水管理に注意する。（魚類）水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意する。

使用残りの薬液が生じないように調製し、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

[保管]：直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管する。

PRTR法に対応するその他の注意は別表の分類6、12に表示してある。(P244)

---

農薬登録（登録番号）：エス・ディー・エス バイオテック（16823）、クミアイ化学工業（16824）、住友化学（21759）

販売：クミアイ化学工業、住友化学